2018年　褥瘡チーム業務活動報告

皮膚・排泄ケア認定看護師
西　谷　美　香
褥瘡対策専門委員会委員長
宇　野　智　子

はじめに

地域の医師不足が続き、明るいニュースに恵まれない昨今にもかかわらず、2018年は褥瘡チームにとって喜ばしい出来事があった。2016年より皮膚・排泄認定看護師と外科でチームを維持してきたが、2018年6月に皮膚科の大久保絢香医師が常勤医として赴任しメンバー加入していただいたことにより、褥瘡チームは新たなスタートを切ることができた。褥瘡管理の充実のみならず、褥瘡と思いきや全く異なる皮膚疾患であることは時折経験することであり、その際に皮膚科医による適切な診断、加療に繋げることも可能となった。

よりパワーアップした2018年の活動について振り返りたいと思う。

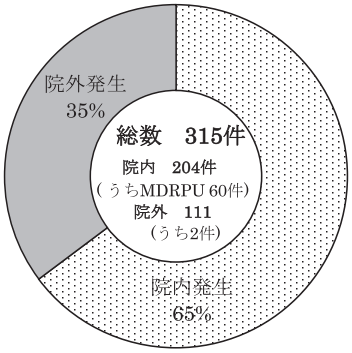
1．当院における褥瘡発生状況

2018年の褥瘡発生総数は315件、院内発生204件、うち医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）が60件、院外発生111件、うちMDRPUが2件であった。昨年と比較し総数は増加傾向にあった（図1）。当院の褥瘡推定発生率は昨年の1.60%より増加し2.29%となった（図2）。

当院の有病率は例年に引き続き4.09%と一般病院の1.99%（2013年日本褥瘡学会調査）よりも高く、MDRPU単独の有病率も当院1.18%と、一般病院0.25%（2013年日本褥瘡学会調査）と比較し高頻度であった（図3）。

2．褥瘡ハイリスク患者加算（図4）

当院ではハイリスクケア加算を算定しており、2018年も638件（収益3,190,000円）算定した。今年も患者数



2016年　234件
2017年　292件

図1　褥瘡発生状況

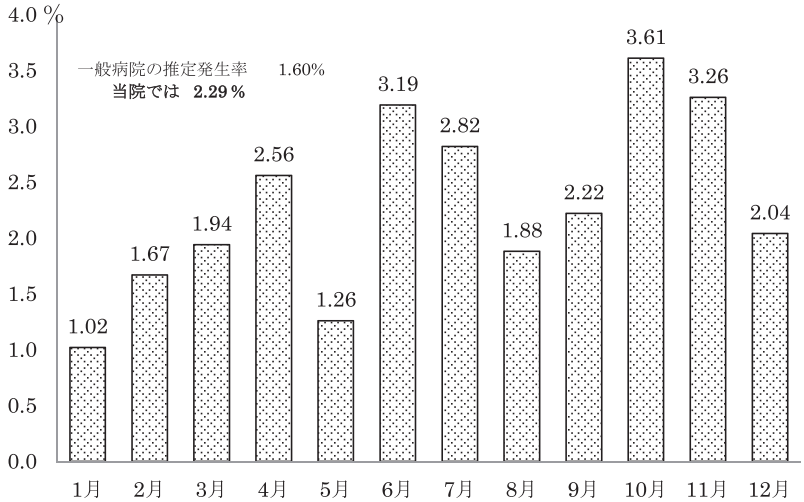
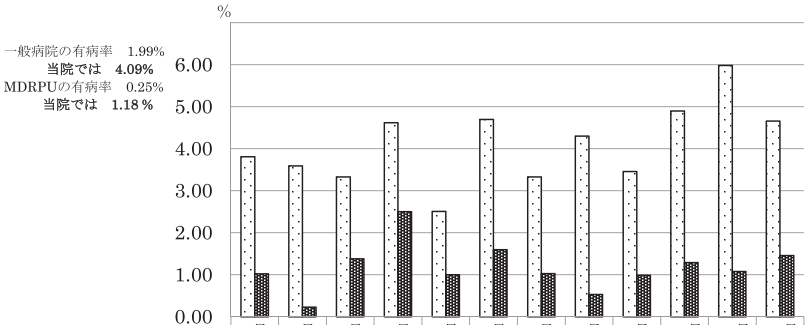
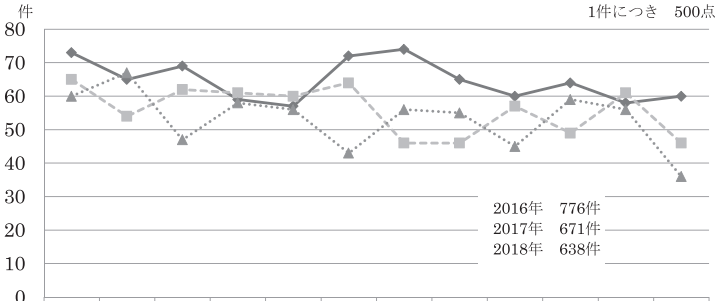


図2　月別褥瘡推定発生率



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全体の有病率	3.81	3.59	3.33	4.62	2.51	4.70	3.33	4.30	3.46	4.90	5.98	4.66
ＭＤＲＰＵの有病率	1.02	0.23	1.38	2.50	1.00	1.60	1.03	0.53	0.99	1.29	1.08	1.46

図３　褥瘡有病率、MDRPU の有病率



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016	73	65	69	59	57	72	74	65	60	64	58	60
2017	65	54	62	61	60	64	46	46	57	49	61	46
2018	60	67	47	58	56	43	56	55	45	59	56	36

図４　褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定状況

減少に伴い、加算件数は昨年、一昨年と比較し減少している。

３．チームの活動状況

１）褥瘡対策専門委員会

月１回開催され、褥瘡発生状況、褥瘡転帰報告、ハイリスク患者ケア加算状況、エアーマット使用状況等についてチームメンバー、各病棟係長へ報告している。来年度からはより参加型の委員会にできるよう検討中である。

２）チーム回診、ミーティング

週１回開催され、医師、WOCN を含む看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、臨床検査技師と介入症例について情報共有し、多職種による目線で問題点を抽出し、褥瘡改善へ向けた改善策を議論している。

３）褥瘡新聞（表１）

月１回発行され、認定看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、臨床検査技師が持ち回りで褥瘡ケアに関する内容を院内スタッフへ発信している。

４）NST・褥瘡合同勉強会（85 頁、表１）

2016 年４月より NST と合同の勉強会となり、チームメンバーを講師として褥瘡についての発表を行っている。特に昨年は、2018 年診療報酬改定に伴い入院基本料算定の際に褥瘡危険因子の評価項目として追加された「スキンテア（皮膚裂傷）」の周知、対策の強化を図るため、テーマとして取り上げた。

褥瘡チームメンバー

表１　褥瘡新聞

号	発行日	タイトル	作成者	
82 号	2018/ 1 /26	白色ワセリンがかわりました	薬剤師	安住　匡人
83 号	2018/ 2 /28	車椅子の基本姿勢について	理学療法士	谷口奈恵子
84 号	2018/ 3 /30	亜鉛、足りていますか？	管理栄養士	香川　　愛
85 号	2018/ 4 /27	褥瘡部門での診療報酬改定　その１	皮膚・排泄ケア認定看護師	西谷　美香
86 号	2018/ 5 /29	褥瘡部門での診療報酬改定　その２	皮膚・排泄ケア認定看護師	西谷　美香
87 号	2018/ 6 /28	薬剤ピックアップ紹介	薬剤師	安住　匡人
88 号	2018/ 7 /31	完全側臥位のポジショニング	理学療法士	谷口奈恵子
89 号	2018/ 8 /30	乳酸菌の働きを知っていますか？～乳酸菌で褥瘡予防～	管理栄養士	城前有紀乃
90 号	2018/ 9 /28	失禁関連皮膚炎（IAD）の予防的スキンケア	皮膚・排泄ケア認定看護師	西谷　美香
91 号	2018/10/31	浸出液を吸収するお薬	薬剤師	西山加那子
92 号	2018/11/29	仰臥位のポジショニング	理学療法士	谷口奈恵子
93 号	2018/12/28	褥瘡と血清鉄のカンケイ	臨床検査技師	吉田　倫子

４．学会活動

１．宇野智子，西谷美香，小川宰司，吉田倫子，高橋利紀，三室有璃，安住匡人，渡久山晃，齋藤慶太，佐々木賢一：当院褥瘡チーム介入症例における血清亜鉛値に関する検討．一般演題（示説），第 20 回日本褥瘡学会学術集会（2018 年 9 月 28-29 日　横浜）

５．新たな取り組み、今後の課題

昨年、数年振りに学会活動をチームとして再開した。今後も継続的に学会活動を行っていきたい。また、予防が可能である MDRPU の院内発生件数ゼロを目標に引き続きチームとしても啓発していきたい。

その取り組みの一つとしてさらに昨年から開始したものがある。MDRPU の一つである NG チューブによる鼻翼潰瘍が残念ながら院内で発生したことの反省から生まれた取り組みである。NG チューブの固定方法や、留置継続の必要性について客観的に評価することで MDRPU を減らそうと考え、「NG チューブラウンド」を開始した。開催は不定期、事前告知なしの抜き打ちで病棟に褥瘡チームが訪問する。NG チューブが留置されている患者さんの状況についてベッドサイドで評価し、問題点があればその場で指摘、改善をお願いする。MDRPU の発生につながりかねない固定方法であった場合には後日再訪問し、改善が継続されているか確認をしている。